

# 小浜城関連年表

年号	西暦	記事
慶長 5	1600	関ヶ原の合戦の功績により、若狭国主として京極高次が入部する。
慶長 6	1601	京極高次、後瀬山城を廃して雲浜の地に小浜城の築城を開始する。
慶長 12	1607	石垣など外構が完成する。
慶長 14	1609	京極高次没。京極忠高が小浜藩を継ぐ。
寛永 11	1634	京極忠高が出雲松江に移封となり、武蔵川越の酒井忠勝が初代藩主となる。
同	1634	徳川幕府より石垣・塀などの破損修復、堀の砂さらえの許可がおりる。
寛永 12	1635	徳川幕府より天守建造、西の丸石垣築上の許可がおりる。
同	1635	幕府大工中井正純が小浜城の棟上げ指揮する。
同	1635	天守台が完成し、天守の棟上げを行う。
寛永 13	1636	天守閣完成。西の丸石垣を築き直し、船見櫓、中櫓、波洗櫓も完成する。
寛永 15	1638	三の丸郭外西津に防波の石畳、西の丸外南に船入の水留の石畳を築造する。
寛永 19	1642	城にある堀の砂を除去する。
同	1642	百間橋虎口、升形石垣、大手門、門北南石垣を築造する。
寛永 20	1643	本丸多門櫓造営の準備にかかる。
正保 2	1645	本丸多門櫓が完成する。二の丸橋、極楽橋を改修する。 <u>小浜城が一応の完成をみる。</u>
同	1645	建物の改築、修理を行い、三の丸米蔵を建設する。
明暦 1	1655	小浜城内にある各種建物の屋根瓦を葺き替える。
寛文 2	1662	大地震があり、石垣の多くが崩壊するが、補修を行う。
明和 5	1768	小浜城の二の丸を修築する。
寛政 6	1794	若狭で洪水があり、小浜城の大手が潰れる。
享和 1	1801	小浜城の堀を浚渫する。
明治 4	1871	小浜県庁大阪鎮台分営の改築工事の際、二の丸櫓から出火。大部分が焼失。
明治 5	1872	城内通行のため、本丸東側石垣が破壊される。
明治 6	1873	全国に廃城令が出される。
明治 7	1874	天守閣が解体される。
明治 8	1875	酒井忠勝を祭神とする小浜神社が本丸跡地に創建される。



# 福井県史跡

## 小浜城跡



### 県史跡 小浜城跡

指定年月日  
 ✓ 昭和 31 年 3 月 12 日 福井県指定

遺 構  
 ✓ 城郭の石垣のみ

アクセス  
 ✓ 小浜駅から徒歩 20 分  
 小浜 IC から車で 5 分  
 レンタサイクルもおすすめ！

### 観光のお問合せはこちら

若狭おばま観光案内所  
 (JR 小浜駅目の前)  
 ☎ 0770-52-3844

発行：小浜市文化観光課  
 制作：(一社)若狭おばま観光協会 2025.1

小浜湾に望む  
 全国でも屈指の水城



JAPAN HERITAGE  
 日本遺産



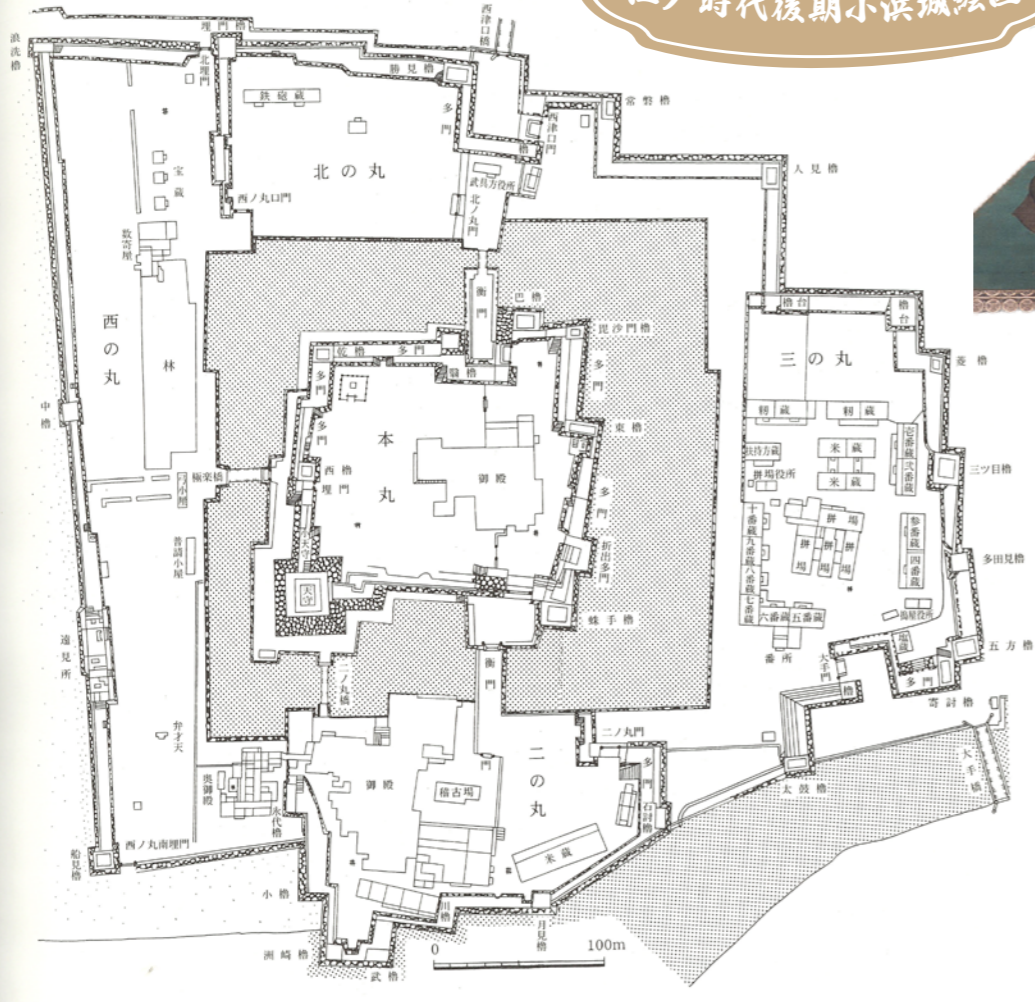
酒井忠勝公

## 小浜城 - 小浜湾に望む全国でも屈指の水城 -

小浜城跡は、慶長5年（1600）に関ヶ原合戦の際、大津籠城で功績をあげた京極高次が若狭一国の城主として入部したのち、築城を開始しました。縄張りは高次の家臣・安養寺三郎左衛門と赤尾伊豆守が手がけたとされ、領民に蘇洞門の石を運ばせて基盤整備を行いました。海濱の地での基盤整備により、石集めに苦慮したとされ、慶長7年（1602）、石材運搬に若狭諸浦の再船改めで782艘が確認されたことが古文書に記されています。また、江戸城の普請役、大坂の陣の出兵等により、京極氏の築城作業はなかなか進みませんでした。本丸を中心に、周囲に郭を配置した城となりました。その後、寛永11年（1634）に武蔵国川越から小浜へ入部した酒井忠勝が、翌年10月に天守台を普請し、幕府大工頭・中井正純の指揮の下で三重の天守閣の棟上げを行い、寛永13年（1636）10月に完成しました。

城郭内部の建物は、正保年中～慶安年中（1644～1651）にかけて相次いで建築され、寛文2年（1662）の大地震により、多くの石垣を破損しますが、廃城までこの石垣を維持し、二の丸の改修や堀の浚渫以外の大規模な城郭修理は行いませんでした。

### 江戸時代後期小浜城絵図



小浜城下鳥瞰図  
(酒井家文庫 小浜市蔵)



小浜城を築城した  
酒井忠勝公



石垣に残る刻印(中央)



完成した小浜城は、本丸・二の丸・三の丸・西の丸・北の丸をもち、天守閣の層高約29m、石垣の高さ約11m、城地の総面積は62,492㎡、本丸の面積は10,347㎡ありました。

しかし、明治4年（1871）、大阪鎮台第一分営の営舎を設置する工事中、二の丸櫓から出火し、城内にある建物の大部分を焼失しました。翌年には城内交通のため、本丸東側の石垣が破壊され、明治6年の廃城令を受けて天守閣を解体し、現在は城郭の石垣だけとなっています。

なお、酒井忠勝が小浜へ入部した際、召し連れてきた獅子舞は、廃藩時に一時断絶しますが、現在、「雲浜獅子（うんぴんじし）」（県指定無形民俗文化財）として受け継がれています。



小浜城の石垣



小浜神社祭礼で奉納する雲浜獅子



出土した剣片喰文の軒丸瓦

## あさらかになった若狭国唯一の近世城郭 - 海域防衛 -

昭和50年代、小浜城跡周辺で多田川改修・市道拡張・裁判所改築工事が相次いで計画されたことから、小浜城跡発掘調査団が組織され、昭和54～57年、6次におよぶ発掘調査が行われました。この調査では良好な城郭遺構が検出され、当遺跡の重要性が再確認されました。北の丸西側と西の丸石垣を中心とした第4次調査では、正保2年（1645）3月23日付酒井忠勝書下しに記される長局跡が発見されました。長局は小浜城絵図には描かれておらず、この調査によりその所在地が確認され、絵図にある長局近くの井戸は単独のものではなく、長局用井戸の可能性が高いとされ、絵図の作成年代にも影響を与える結果となりました。

小浜城の海域弱点对策として、築城時から砂や波の防御に捨石でできた幅約6mの乱石積みがありました。これは、西の丸西南隅にある船見櫓まで続き、現在のテトラポットの役割を果たしていました。また、米蔵や塩蔵など、多くの食糧貯蔵施設がある三の丸の旧地表は海拔1m前後と低かったため、蔵は基礎を海拔1.5mと高く設定し、築造していました。

この調査によって出土した遺物の多くは瓦類で、巴文、菊花文、檜扇文、剣片喰文が記された軒丸瓦などが目をひきます。福谷村（西津）で焼かれていた瓦は小浜城の御用瓦だけでしたが、「若狭郡県史」では、元文年中（1736～1740）以降、一般民家用の瓦も焼かれるようになったことがわかります。しかし、城内地区の公共下水道污水管布設工事に伴い、平成9～13年に実施した発掘調査では出土した瓦から、福谷村以外の瓦工場の存在がうかがえ、「稚狭考」では、元文年中以降、田繩村（口名田）でも瓦の生産開始がされたことから、福谷村と田繩村の両工場が御用瓦製作工房として使用されていた可能性があると推測されています。

**御城印**

小浜城御城印

1枚 300円

販売場所

山川登美子記念館  
福井県小浜市千種 1-10-7  
開館時間 9:00-17:00  
(御城印の販売は16:00まで)  
休館日 火曜・年末年始